

インド日記

小熊 英一著

著者は今年一月から二月にかけて、デリー大学を拠点に「日本近代史」を講義しながら各地を回った。本書はその時の日記だ。日記だから統一された主題はない。「コンピューター・カフェの門前に牛が立つ」という、ハイテクと古い秩序が混然としている社会に驚き、貧富の差にがくぜんとし、排他的なヒンズー至上主義について学者たちと議論する。

しかし、著者はインドと日本の文化の差に驚きながらも、決してインドを異質の社会として見ていない。例えば、カースト制度は日本の朝鮮人差別と対比させながら考察される。インドの魅力だけでなく、異文化を観察する新しい目線の持ち方を教えてくれる良書。

(新曜社・二七〇〇円)